根占町川南宇都の板碑

【所　在　地】肝属郡南大隅町川南諏訪上
【種　　別】県指定史跡
【指定年月日】昭和 46 年５月 31 日

この板碑は, 根占町川南諏訪上宇都の岩林寺跡にある。板碑には正応６（1293）年２月 11 日の紀年銘があり, 本県最古のものである。総高 1.35m, 身部の上の幅 43cm, 下の幅 53cm, 厚みは上部で 28cm, 下部で 29cm, さほど高くなく安定した梯形碑である。碑身の上半部にキリーク種子を薬研彫りし, その下に紀年銘がある。紀年の左右に１行ずつの銘痕があるが磨滅のため判読できないが, 種子は阿弥陀と解される。なお, 隣接して東方に大小二基が並列し, その大きいものは, 高さ 2.2m, 幅上部で 41cm, 下部で 47cm, 身厚上部で 26cm, 下部で 30cm, 種子は石面剥落のため, 上の字は全く不明, 下の字は明らかではないが「ア」である。その下に「永仁二年 歳次甲午 二月廿三日 孝子敬白」（永仁２年は 1294 年）の刻銘が残っている。傍らの小碑には「アク」の種子がある。共に祢寝氏にゆかりのある板碑と推定される。

〈参考〉

●板碑　頭部を三角形の山形に作り, その下に２段の横線を刻み, 次に頭部があり, 下方の身部に種子や仏像等を刻んだ板状の石塔である。追善や供養などの目的で作られた板碑は鎌倉時代前期以来, 関東に大流行し, 全国に拡がった。

●種子　板碑や石塔に, 梵字一字をあてて, その主尊を象徴する文字のことである。各尊梵名の多くは頭文字をあて, または名称の中の１文字をあてた。２字, ３字で合成している場合もある。

●◆寝氏　鎌倉時代初期から◆寝院南俣（現根占町, 田代町, 佐多町一帯）の地頭職であった。この板碑は４代清親の時代に建立されている。初代清重, ２代清忠（近江で討死), ３代清綱。